

ガスクロマトグラフィー研究懇談会 50 周年に寄せて

元物質工学工業技術研究所
(委員長 1991 年から 1993 年) 竹田一郎

この度、本研究懇談会は創立 50 周年を迎え、記念講演会を行う運びになりました。

創立以来半世紀、これほど長期間この活動が続けられるとは、創立に携わった先生方も予想されなかったのではと考えると感慨深いものがあります。これもひとえにこの活動に熱心にご協力下さった皆様方のおかげと感謝しております。そこで、創立の発端のことなどを少し述べたいと思います。

最初に私が当会に関わったのは、(故) 益子洋一郎課長から今度荒木 俊先生方と相談した結果、GC の会を作ることになったと聞いた時でした。私の仕事は、参考文献の冊子を作ることで、まず、諸先生方から頂いた原稿をまとめて整理し、それを外注してガリ版用紙にタイプしてもらい、それらを謄写版で一枚ずつプリント、最後に数枚を綴じて冊子にしました。作られた冊子は、懇談会の席で使われる以外にかなりの量郵送もされ、結構大変でした。また、原稿も順調に集まったわけでもなく、電話で問い合わせ、図書室で調べ不足分を追加するようなこともありました。当時は、この様にして集めた情報をもとに文献紹介を行うのが主な行事でした。その後、**J. Chromatog.**などに分野別にタイトルが掲載されるようになり、またマイクロフィルムやコンピューターによるオンライン検索なども使えるようになりましたがかなり不便だった記憶があります。また、抄録だけでも、**Chemical Abstracts** では年間の発行数が本を積み上げるとメートル単位になりペーパー式によるデータ収集の限度に達していたようです。

現在では、ネット上に天文学的量の情報が蓄えられており、**Google** などで簡単に検索して瞬時に見ることができ、また、リンクで関連情報も容易に表示できるようになっています。ごく普通に使っているのであまり感じませんが、これらがペーパーで行われていたらいかに不便かを考えてみますと、その驚異的な能力は凄まじいといしか言いようがないでしょう。この様な状況に応じて、現在では文献紹介よりもむしろまとまった主題の講演、国際会議、あるいは教育、出版と言った多岐の方面に GC 懇の活動が広がっているようです。今後のさらなる活躍に期待したいと思います。

また、今回の主題は「ガスクロの過去、現在、未来」ですが、似た記事が約 50 年前、**A.J.P Martin** によって書かれていました。これは、GC の未来について 13 項目にわたり予言している物で、かなり良く将来を見通していたように感じます。それについては、GC 懇 200 回の歩みに私が予言の達成度の検証など行っておりますので興味のある方は参照してみてください。また、保母敏行先生が「ガスクロマトグラフィーの将来」についての題で項目のみですが、非常に詳細に記述されております。今回の発表と併せて参照されると興味深い物があるのではと愚考いたします。

GC 懇発足以来半世紀となり、残念ながら発足当時ご活躍頂いた方々の多くがご参加頂けなくなっております。本来なら、これらの先生方にこの「まえがき」をお願いすべきでしたが、諸事情により僭越ながら私が書くことになりました。ご容赦下さい。